

想い。

大切なものがある
変わらないものがある

暮らしから地域が生まれ
文化を育み
歴史をつないできた

つながること
つながって行くこと
つなげて行くこと

加藤千穂 (かとう ちほ)
1975(昭50)年9月10日生まれ、43歳。
北海道出身。1994年私立函館白百合学園高等学校卒業、1998年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。のちに政治に携わることになった原点は、在学中の阪神大震災および1996年第41回衆議院議員選挙へのボランティア体験、そして国政選挙の一端と僅差による落選を垣間見たこと。民間企業等での勤務を経て2003年より衆議院議員秘書、2009年より政策担当秘書。様々な経験から、「つながる想い」×「熱量」が世の中を動かすことを実感。

立憲民主 号外

立憲民主党 立憲民主編集部
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-12-4 ふじビル3F TEL 03-6811-2301 Email goiken@cp-japan.net
立憲民主党栃木県連 〒320-0043 栃木県宇都宮市桜2-1-30 TEL 028-688-8555 URL http://cdp-japan.jp

十 熱 量

世代を 地域を
文化を 歴史を
人と暮らしと
社会の仕組みを
異なる考えを
国と国も
つなげていく
未来へとつなげていく

次世代へ つなげていく



かとちほ後援会への入会と個人カンパのお願い
ともに加藤ちほを応援しましょう！入会申し込みハガキをお送りください！個人カンパは下記の口座で受け付け中！

かとちほ後援会(資金管理団体)
足利銀行 本店 店番号100 普通口座5212521



「ひとりちほ」も一緒に応援！

【後援会討議資料】

大切なものを
つなぎたい。

投票率10%UP
で少し先の未来へ！

新人

43歳

加藤 ちほ

20年先も。
つながる栃木。

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan

www.katochihoh.com



加藤ちほって?



43歳

知力・体力とも準備万端!

0 1975 北海道函館で生まれる。
2人の弟に慕われる、責任感が強く面倒見のいい姉御肌。アウトドア好きの父の影響もあり、自然の中で培われた感性と基礎体力は、その後も将来を通じて数々の激務を支えている。



18 1993 大学受験真只中、母親が急激なリユーマチの悪化で一日の大半を寝て過ごすように。その姿に、「このまま受験・上京していいのか?」と戸惑うが、母親は祖母の反対もはねのけ、毅然と「希望の大学に行きなさい。自分の好きな道を生きなさい」と送り出してくれた。

“母には感謝してもきれません。幸い、医学の進歩のお陰で母は今も元気です。”
写真は年始、ともに東照宮を訪れたときのもの。



すべての子供を応援したい!
どんな境遇に生まれても、誰もが夢を持てる社会であってほしい!

1994 早稲田大学 政治経済学部 入学。
当初は上京に反対だった祖母をはじめ、奨学金機構、アルバイトなど、内外多方面からの支援を得ての大学生活。

1995 阪神淡路大震災が発生、ボランティアへ。

1996 衆議院選挙のボランティア選挙運動と僅差での落選を経験。そして、政治との出会い。

“ 出会いがつかない原点 ”

1998 卒業後は、民間企業へ就職。

“ 激動でかつ、今の私を作り上げた時期 ”

政権交代、未曾有の大震災、劇的な政権転落... ジェットコースターのような修羅場の数々...
それが30代。

28 2003 人の縁に導かれ、衆議院議員秘書に。

34 2009 衆議院議員 政策担当秘書に。

政治の真の価値を
とことん学んだ
秘書としての
15年間

政策・行政に精通し、人格識見を慕う賛同者が各界にいる政治家のもとで、野党でありながら、与党や霞ヶ関を動かし、法律をつくったり、制度を変えたりしてきた。

2011 東日本大震災発生
「原発事故収束対策事故プロジェクトチーム」
事務局統括役



原発力損害賠償支援機構法や、新増設を認めない40年廃炉ルール・バックフィットを導入した原子炉等規制法及び関連法の一括改正、除染の根拠法となる放射性物質汚染対処特措法、議員立法による子ども被災者支援法、原子力規制委員会及び原子力規制庁設置法、憲政史上初の国会事故調査委員会設置法などの成立に関わる。

2015- 超党派「永田町子ども未来会議」事務局

生まれながらに人工呼吸器や経管栄養などの医療デバイスが必要とする医療的ケア児は、医療の超高度化が生んだ、それまで社会が想定しなかった先端課題。当事者や現場の声を反映させながら行政を動かし、超党派で協同して制度・法改正に結びつけられる。この解決モデルは、あらゆる政策分野で応用可能。

これまで想定しなかった
先進課題を
解決できる!

43 決心 多分野の知見を結集し、行政を動かし、法律をつくる。声なき声をカタチにできる、実務型の政治家になる!

平和

- ・ 憲法9条を守る
- ・ 平和外交を軸とする安全保障政策を再構築



子ども

社会全体で支える子育て。税金の無駄遣いカット+教育予算拡充・教育機会の保障/誰もがチャレンジできる社会、課題解決力を養う教育改革!



人口減少問題に向き合う

医療・教育・福祉・生活の足を守る。地域交通ネットワークの見直し、リタイア世代・子育てママも働きやすい多様な選択肢を

地域住民が主役

10年先を見据えたまちづくりビジョン、老朽インフラの維持管理、災害に強いまちづくり、NPOや社会的起業による公共サポート



20年先を見据えて次世代へつなぐ

徹底的な地域の課題解決

安定雇用創出、Uターン/移住支援、地場企業の事業承継・後継者人材マッチング、教育格差や子どもの貧困問題

栃木の強みを伸ばす

時代を見越した人材育成・ものづくり産業の進化、技術力を持つ中小企業支援・日米自由貿易交渉の自動車関税撤廃要求に断固反対

農業を守る

日本の食糧安全保障/主要農産品をしっかりと守る、戸別所得保障制度の復活、持続可能な家族経営農業、種子法廃止問題、治水・地域防災機能の向上

攻めの観光

歴史と文化、豊かな自然や温泉など抜群の観光資源を活かしたブランド力アップ、バリアフリー化・宿泊施設のリノベーション支援、外国人観光客にも優しい多言語表示の導入、県内交通網の強化でエリア観光へ

栃木の魅力を活かす! 農業×観光×再生可能エネルギー

原発に依存しない社会

蓄電池技術開発、系統電線強化支援、高低差と豊富な水量を活かした水力発電の活用強化。廃炉・使用済み燃料の最終処分・実効性ある避難計画の実現。放射性廃棄物は国が責任をもって処分!

先端課題の解決

医療的ケア児のように、社会が想定しなかった先端課題の法制化、SDGs(持続可能な開発目標)

真面目な努力が報われる まっとうな社会へ

格差是正・消費増税10%の凍結・累進課税の逆進性見直し



加藤ちほの重点政策